

# 世界遺産アカデミー認定講師 File No.10

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓蒙活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第10回は世界遺産スペシャリストとして旅行業界でもご活躍されている、世界遺産アカデミー賛助会員の深申泰光(ふかくし・やすみつ)さんです。

## ——旅行好きが高じて、 世界遺産を学び始めました。

父が車で家族旅行にたびたび連れて行ってくれた影響で、私は小さい頃から旅好きで、大学生の時には既に長崎県と群馬県をのぞく45都道府県を訪れていました。はじめての海外旅行は、大学3年生の時です。登山冒険家の植村直己(うへむら・なおみ)さんに憧れて、東南アジア最高峰(標高4,095m)のキナバル山を単独で登頂したいと思って、マレーシアのボルネオ島にひとり旅立ちました。本当はアマゾンやアフリカに行きたかったのですが、1970

年参考になりましたし、知らない世界遺産を知る楽しさもありました。第2回検定から受験し、翌年、2級(旧シルバー)認定者からナビゲーターという世界遺産検定講座の講師が募集されると知りました。世界遺産やユネスコ平和理念をさらに学ぶ貴重な機会だと思い参加し、今日の認定講師へと至ります。検定受験の勉強はもちろん、ナビゲーター研修を通じて、表面上の知識だけでなく、平和構築と未来への展望を、より深く追求できました。旅行目的でガイドする世界遺産と、検定受験目的で説明する世界遺産とでは、言うまでもなく、様相が違います。興味のなかった方にも旅行をきっかけに世界遺産の

チュア、屋久杉やレバノン杉の葉っぱや球果、アンモナイトや三葉虫の化石、宇治上神社のおみくじ、セーシェル共和国の世界遺産「メ深谷自然保護区」から世界最大のヤシ「フタゴヤシ」のタネの実などを紹介し、実際に触れてもらいます。五感で世界遺産を感じてもらおうのです。

明海大学で学生向けに実施した講義は反応が静かで少し心配になりましたが、最後に万雷の拍手をいただきました。世代的な受け止め方の違いかもしれません。学生アンケートを見ると、「世界遺産の面白さがわかった」、「検定の勉強方法がわかった」、「フタゴヤシのタネに感動しました！」など、涙が出るほど嬉しかった!! 大学時代の教育実習で味わった

年代当時は海外渡航がまだ珍しく、予算的な限界もありました。歩いて大自然に密着できる場所ので、単独登山が安全な高い山として、熱帯雨林のキナバル山を選んだのです。1カ月間ほどの滞在中は山に登るのと中心街に行くことぐらいの、のんびりとした島でしたが、現地の友達がたくさんでき、とてもお世話になりました。クアラルンプールでインドやシルクロードをひとり旅されている日本人の方と出会った影響もあって、すぐに就職はせずに、卒業後3年間ぐらい、海外の各地を放浪しました。富宮県白石市で東北新幹線の路線建設作業の肉体労働をして半年かけて旅費を準備し、世界一周旅行に出発し

大切さを知っていただけたら、とても嬉しいです。

## ——ユネスコ平和理念を軸に、 世界遺産を学ぶ楽しさを 伝えていきたい。

知らない世界遺産に出会うと、まずヴィジュアルや地理をインターネットで検索し、未知の世界を知る楽しさとともに学びました。とりわけ建築物は難しい分野だと思います。サブノートのなものを作成し、宗教文化的な特徴をまとめ、歴史的な「流れ」で理解するように努めました。全体像を捉えている

感動も重なり、講師冥利に尽きました。

ユネスコの理念や多様な世界遺産の付加価値を理解することで、視野が広まりました。白神山地のブナ林であれば、氷河期の影響を受けていない純粋な原生林としての素晴らしさや、保水力や緑のダムとしての重要性も学べました。認定講師として日々前進する過程で、自分自身がいちばん成長させてもらっています。ひとりでも多くの方たちに、「身近に感じる世界遺産」をモットーとして、世界遺産の理念「心の中に平和の砦を築く」を軸に、世界遺産を学ぶ楽しさを伝えていきたいと思っています。そして、何よりも、世界遺産を通じて繋がった人たちとの出会いが、私にとっての最大の財産です。

ました。当時まだ日本の世界遺産は誕生していませんでしたが、振り返ってみると、この放浪旅行で多くの世界遺産を訪れました。南米チリの「ラバ・ニューイ国立公園」で見た紺碧の海に浮かぶ孤島に屹立するモアイ像群は、感動的でした。慣れない馬をレンタルしてイースター島内を回ったのですが、観光客がひとりもない、モアイだけに逢う、この島を貸し切りで楽しんだ最高の気分でした。

帰国後、旅行業に就き、現在に至ります。新聞広告で世界遺産検定を知り、近くの書店で公式テキストを見つけて、興味が湧きました。添乗業務とは別にプライベートでも海外を訪れますので、周遊先と

と、受験の際の、正解の選択肢が見えなくても、消去法で類推できます。当時作成したノートはガイダンスの際に活用し、資料として紹介することもあります。

ガイダンスでは、楽しく、かつ世界遺産を身近に感じてもらうことを心がけています。導入部分で、どう惹き込むか。たとえば、イスラム武装勢力による「伝説の都市トンプクトゥ」占拠事件といった、世界遺産関連の時事ニュースを扱った。ガイダンス用のパワーポイント資料の表紙は、作り手の想いを汲み取り、丁寧に解説して本題に入ります。また、現地のお土産も紹介します。ストーンヘンジのミニ



林野庁認定「森林インストラクター」としても自然保護活動をしている深申さん